



【メモ】フタバスズキリユウの全身復元骨格  
は、いわき市の「ほるる」や会津若松市の県立博  
物館、東京の国立科学博物館で見学できます。

いわき市の川岸で1968年、当時高校2年生の鈴木直さんが化石の一部を見つけました。その後、研究者たちによる調査で多くの骨の化石が発見されました。

この骨は爬虫類の首長竜のもので、体の長さ約6・5メートル、約8500万年前の白亜紀後期の海に生きていたと分かりました。当時の日本では大型爬虫類の化石は珍しく、注目されました。

化石が見つかった双葉層群という地層の名前と、発見した鈴木さんの名前から、長い間「フタバズクリユウ」と呼ばれていました。2006年に新種だと確認され「フタバサウルス・スズキイ」という学名が付きました。海外からも注目され、今も研究が続いています。

きじをよんでおもったこと、みんなとはなしてかんじたことをかこう。(120字くらい)

Three horizontal lines for handwriting practice, each with 21 dots. The lines are evenly spaced and span the width of the page.